

【IDWR 感染症週報】

2026年1~4週までをお届けさせていただきます。

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-01-02.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-03.pdf>

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/idwr2026-04.pdf>

<発生動向総覧と状況>

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は2週連続で増加した。過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い

<定点把握の対象となる5類感染症>

- ・インフルエンザ

定点当たり報告数は3週連続で増加した。

都道府県別の上位3位は鹿児島県(35.19)、宮崎県(29.36)、大分県(28.90)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は647例と前週と比較して減少した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(22例)、1~9歳(187例)、10代(59例)、20代(17例)、30代(12例)、40代(13例)、50代(24例)、60代(40例)、70代(99例)、80歳以上(174例)であった。

- ・新型コロナウイルス

定点当たり報告数は増加した。

都道府県別の上位3位は北海道(6.02)、栃木県(5.89)、山形県(5.10)である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は775例と前週と比較して増加した。都道府県別では46都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(29例)、1~9歳(37例)、10代(8例)、20代(7例)、30代(8例)、40代(15例)、50代(33例)、60代(63例)、70代(187例)、80歳以上(388例)であった。

急性呼吸器感染症

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は栃木県(93.91)、宮城県(89.09)、埼玉県(88.55)であ

る。

RS ウイルス感染症

定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期（前週、当該週、後週）の平均と比較してやや多い。

都道府県別の上位3位は島根県（3.36）、山形県（2.04）、福島県（1.64）である。

咽頭結膜熱

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は宮崎県（1.80）、長崎県（1.55）、島根県（1.36）である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は愛媛県（7.15）、福岡県（5.90）、新潟県（5.30）

である。

感染性胃腸炎

定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は

群馬県（16.96）、岐阜県（14.22）、東京都（13.05）である。

水痘

定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は福井県

（1.52）、島根県（1.18）、沖縄県（1.00）である。

手足口病

定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は福井県（0.84）、長崎県（0.58）、熊本県

（0.56）である。

伝染性紅斑

定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は鹿児島県（1.81）、熊本県（0.98）、岩手県

（0.89）である。

ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福井県（0.28）、佐賀県（0.17）、秋田県（0.15）である

流行性耳下腺炎

定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は大分県（0.11）、群馬県（0.08）、埼玉県（0.07）、岡山県

(0.07) である。

- ・基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎

定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位2位は群馬県（1.11）、栃木県（1.00）、岐阜県（1.00）、島根県（1.00）である。

感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）

定点当たり報告数は減少した。11都道府県から14例報告があり、年齢群別では1～4歳（3例）、5～9歳（8例）、10代（3例）であった。